

管理者	サビ管	書記
		

会議名 フレックスコートさくら 地域連携推進会議

開催予定日：2025年 12月9日（火）13：30～15：30

<参加者紹介>

地域住民	S 様
地域住民	M 様
福祉と運営に知見	やまねっと 遠城寺様
ご利用者	Y 様
ご利用者家族	S 様
フレックスコートさくら 管理者	佐藤
フレックスコートさくら サービス管理者	山中主任

<会議の目的・役割の確認>

令和4年6月に取りまとめられた「障害者総合支援法改正法施行後3年の見直しについて～社会保障審議会 障害者部会 報告書～」において、「居住や生活の場であり、運営が閉鎖的になるおそれのあるサービス類型については、地域の関係者を含む外部の目を定期的に入れることが、事業運営の透明性を高め、一定の質の確保につながるものと考えられ、介護分野の運営推進会議を参考とした仕組みを導入することが有効と考えられる」との指摘がなされました。

こうした背景を踏まえ、居住系サービスである障害者支援施設及び共同生活援助（以下「施設等」という。）において、各事業所で地域の関係者を含む外部の目を入れた「地域連携推進会議」を開催すること及び会議の構成員が事業所を見学する機会を設けること（それぞれおおむね1年に1回以上）が義務付けられました（令和6年度は努力義務、令和7年度以降は義務）。

施設等は、単に事業者に求められる義務として受け止めるのではなく、利用者がその人らしく安心して暮らすことができるよう、この仕組みをうまく活用しながら、施設等と地域との連携を推進し、事業運営に活かしていくことが重要です。

- ・ホームに入居している利用者さんと地域の関係づくり
- ・地域の皆さまにグループホームの存在を知って頂く
会議を通して、地域の方々にグループホームの存在を知って頂く。
結果として災害時等で助けていただくだけでなく、こちら側で協力できることがあれば貢献していく。
- ・サービスの透明性と質の確保
グループホームは生活の場ということもあり、外部の方の目が入りにくいことが課題の一つ。
会議を通して地域の皆さまにサービス内容や取り組みを知っていただき、透明性の確保を目指していく。また、必要に応じてご助言をいただき、改善に努める。
- ・利用者さんの権利擁護
利用者様が地域の中で希望する生活が送れているかなど、会議を通して皆さまに知って頂く。
また、法人（事業所）の虐待防止や権利擁護への取り組みのご説明を行う。

①グループホーム、事業所の紹介

フレックスコートさくらは平成 23 年 4 月に事業を開始したグループホーム（共同生活援助）です。1 階男性 6 名、2 階男性 6 名の計 12 名の入居者様が生活されています。

自立支援に重きを置き、個別支援計画書に基づき、ご自身でできることはなるべく行っていただき、苦手なことは世話人、生活支援員である職員が支援します。

週末はご自宅に帰宅される方や、単身あるいはご家族の高齢化等によりホームで過ごす方がいます。ホームで過ごす場合、ゆっくりする方もいれば単独で外出したりガイドヘルパーを利用して外出されるなどして過ごされています。

入居者の誕生日には誕生会を開催したり、季節等に見合った行事や外出イベントを実施しています。

お食事は法人内外の配食サービスを利用して食事提供を行っています。

日中は通所施設等に通い、軽作業や活動をして過ごす方や一般就労（障がい者雇用）で働いている方もいます。

・ご意見

今回の説明を聞いて、今まで思っていたイメージとは全然違った。

老健のことは知っていたがそれよりも自由な感じがする。

同じ福祉でも高齢と障がいですぐに違ふんだなと感じた。

今まで知らなかったので閉ざされた世界になりがちでお互いに交流に戸惑いがあったと思う。

これを機に開かれた事業所になってほしい。

今の自治会との交流をもっとしてほしいと思います。

日ごろからもっとグループホームから進んで地域との交流をもっとほしい。

利用者さんと一緒に地域のイベントにもっと参加してほしい。

ホームの特色を生かした利点をもっと発信すべき

②経営状況（10月までの実績）

項 目	月 次	累 計
	金 額	金 額
事業活動収入計(A)	4,616,081円	31,918,243円
事業活動支出計	3,660,357円	27,805,195円
人件費(B)	2,258,812円	17,740,103円
人件費率(B÷A)	48.9%	55.6%
事業活動資金収支差額	955,724円	4,113,048円
当期資金収支差額	649,641円	1,970,467円

③近隣からの苦情等について

フレックスコートさくらでは苦情は年間を通して苦情はいただいておりません。

過去に植木が伸びてしまったことで切ってほしいという要望をいただいたことがあり、その後は年 2 回程選定を行うようにしています。

ご意見

今、隣でアパートを建てているので環境の変化については心配している。

事前に新しいアパートの入居者にホームからの説明ができるように手配をしていくのが良いと思う。

④利用者の権利擁護、虐待防止の取り組みについて

・セルフチェックの実施

コメントの振り返りと共有

・虐待防止委員会の実施

3ヶ月に一度虐待防止委員会を実施して虐待や権利侵害が起きていないか確認を行っています。また、毎月の事業所会議にて上記のセルフチェックの振り返りを行い、虐待防止に関する意識の向上に努めています。

その他身体拘束適正化委員会、感染症対策委員会の実施。

・事故について

今年度1件。金銭管理において残金が合わない事故がありました。事業所内の会計に関することで利用者様やご家族様に不利益は生じていません。

・ヒヤリハットについて

今年度（4月1日）から12/4現在で84件。月平均10.5件のペース。

事故を防ぐため、積極的にヒヤリハットを出すよう取り組んでいます。

⑤利用者さんの様子

平均年齢は48.2歳 平均区分は4.3で主に知的障害をお持ちの方々が利用の対象となっています。

入居者の平均年齢が上がってきており、高齢化や機能面の低下が課題になっています。

今後は介護保険サービスとの併用や、サービスの移行や切り替えが必要になる方が増えると思われる。

⑥関係機関との連携

訪問リハビリや訪問診療、訪問歯科、訪問看護など、障がい福祉サービス以外のサービスを利用して利用者様の健康や緊急時の備えをして安心、安全に生活が送れるよう努めています。

⑦防災対策・BCP（業務継続計画）について

・年に4回の避難訓練等行う他、法人合同防災訓練を年2回実施しています。

今年度は職員向けに普通救命講習を実施してAEDや救命の知識を深めています。

・AEDを設置、大和市消防へ申請を行っており、地域の方が緊急で使用する場合にお貸しできるようにしています。

・BCP（業務継続計画）として災害時用と感染症に関する内容を明記したものを作成、共有しています。別紙回覧用 参照

ご意見

マニュアルはマニュアルでしっかりしたものがあると思うが、いかに現場や地域で動けるようになるかということが大事だと思う。

BCPはいかにも行政がやりそうなこと。実際に震災が起きた時にこれを見て動けるのか。

想定、想像を超えることが起きるため、活用できるかは分からないが、作成していることはよく分かりました。

⑧質疑応答・その他

今回参加している地域住民の我々は地域交流という面でポジティブな話をさせていただいたが、実際は地域の中で反対、ネガティブ、批判的な意見があることも事実である。

そのためいきなり様々な催しに参加するよりは班長等とコミュニケーションを取り、根回しから始めることがよいと思われる。

⑨施設内の見学

見学の再訪は忙しさや距離などから時間を確保するのは難しいとのこと。当日の見学を皆様ご希望されたため当日に見学を行った。

以上